

の 葛

鐘 野

KADONO - NO - KANE

CONTENTS

館長からのメッセージ

わたしと図書館

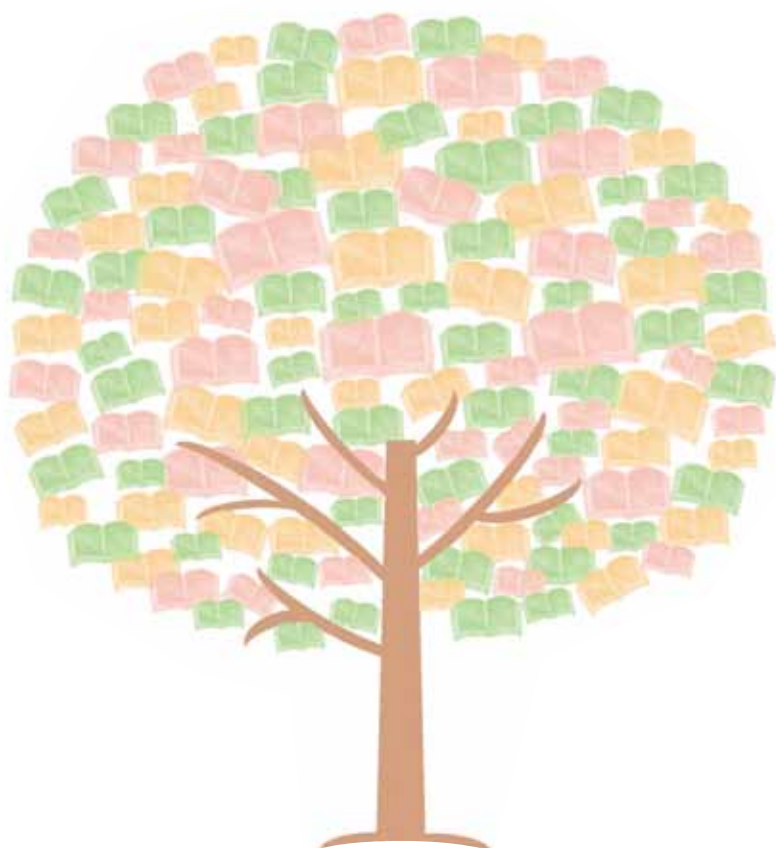
特集:京都光華女子大学学術リポジトリ

わたしのすすめる1冊

TOPICS

第21号
2014年4月

京都光華女子大学図書館報



KYOTO KOKA WOMEN'S
UNIVERSITY LIBRARY

館長からの
メッセージ

「変わる図書館・変える図書館」

の だ たい ぞう
図書館長 野田 泰三キャリア形成学部 キャリア形成学科
(日本中世史)

図書館長に就任して1年がたちました。博物館ならまだしも、図書館業務には全くの素人ですが、スタッフの皆さんに支えられ、なんとか1年間乗り切ったというのが正直なところです。

さて、近年、図書館のあり方が大きく変わってきています。従来の図書館はとにかく静かに読書や勉強をするところでしたが、最近では DVD・CD の鑑賞ができたり、市民向けのカルチャー教室を開催したり、カフェを併設したり。大学図書館では電子書籍・電子ジャーナルへの対応が当たり前になっていますし、グループ学習室をずらりと並べてゼミや研究会を行えるようにしているところも増えています。

私たちの図書館も少しずつ変わっていきます。今年度、本学では学習ステーションや各学科コモンズが開設されますが、これにあわせて図書館にもより静穏な環境で勉強できる個別学習スペースを設置します。またグループ学習室の充実、配架図書の入替え、電子ジャーナルへの対応の強化など、学習・研究環境の向上を図っていく予定です。

昨年度はキャリアセンターと連携して資格関連図書マップを作成したり、カフェ光庵とのコラボ企画“絵本に登場するスイーツ”を開催しましたが、こうした新しい取り組みも継続していきます。

大学図書館本来の学習・研究スペースとしての機能を充実させつつ、学生や教職員の皆さんの多様なニーズに対応していくことが大切だと考えています。

そこで皆さんにお願いです。

図書館に対する要望や意見を遠慮無くお寄せ下さい。

こういう書籍を購入してほしい、こういったところを改善してほしい、こんな企画があればいいな。

なんでも構いません。

図書館の内部にはなかなか気づかない点をどしどし指摘していただきたいのです。

利用者あつての図書館です。皆さんのニーズを汲み取って、どんどん変わって行きたいと思えます。

目指すは、小粒ながらピリリと辛い、使いでのある図書館です。

寄贈図書リスト

現・旧教職員ほか（平成 25 年 1 月～12 月受入 寄贈者の五十音順・敬称略）
この他にも学外の方から多数の図書を御寄贈いただきました。改めて御礼申し上げます

林市藏の研究：方面委員制度との関わりを中心として ほか	小笠原 慶彰
高機能広汎性発達障害の大学生に対する学内支援	岡田 敬司
遊びの指導 新版 乳・幼児編 ほか	吉村 啓子
表象と生のはざままで：葛藤する米英文学 ほか	和栗 了
保育と社会福祉 ほか	木村 容子
基礎から学ぶフランス地方料理 ほか	森井 正史
トヨタ財団 30 年史 ほか	清水 康次
まるまるまるのほん ほか	木戸 美幸
ヴェーバーと丸山政治学 ほか	柴田 周二
ウエルネスからみた母性看護過程+病態関連図 ほか	玉里 八重子
現代児童文学作家対談 6 ほか	森井 弘子
多彩なる詩人パイロン ほか	キャンベル早川 久美子



わたしと図書館

「光華で私は、漱石と会った」

大学のシンボルと言えば、「時計台か図書館か」と洋の東西、相場は決まっている。着任からまだ日の浅い私は、寒さ厳しい冬のある日、図書館の担当にお願いして館内を隅から隅まで徹底取材をさせていただいた。1階から3階までの開架式のフロアは明るく暖かく、期末試験前で学生たちの真剣な顔が見える。だが地下1・2階に降りると体が芯まで冷えて来た。でも、書庫に次ぐ書庫にずらりと並ぶ本また本が、静かな興奮をもたらす。

そして、たどりついたのは、貴重書書庫だ。閲覧をお願いして見せていただくと、江戸初期の美しき嵯峨本。そして何と、夏目漱石と出会った！

細い筆で愛用の原稿用紙に細かく書かれた亡くなる一年前の自筆のメモ。執筆の前に頭の中を整理するためか。あるいはプライベートな悩みの吐露なのか…。その一部を紹介すると、「胸中_女」「舌癌」「骨董屋」(どういう筋書きなんだ?)「男ノ執念深き事。女の執念深き事」

わきた てつし
脇田 哲志

短期大学部 ライフデザイン学科
(国際情勢・アメリカ・ジャーナリズム)



「男冷静女物足らず。男熱烈女ノ苦痛」(ひょっとして何かあったの？漱石さん)。苦吟する漱石の脳の中を盗み見するようなゾクゾク感に襲われてきた。メモは最後に「何故勉強せぬ」。およそ百年の歳月を飛び超えて、漱石の肉体が眼前に立ち現れてきた気がした。

ちなみに私の試算では、学生一人あたりの蔵書数は、光華は京都の女子大の中でトップクラス(京都女子大がほぼ同レベル)。同志社女子大、ノートルダム女子大を遙かに引き離している。資格ガイド書の書架に行くと、資格試験の期日が表示されているなど、思いやり精神満載のサービスも目を引く。学生が一人2万円の範囲で好きな本を図書館のために選べる、という教養重視の光華らしいイベントも行われると聞く。学生の皆さん、徳風館は知の宝島だ。書架のジャングルを探検しよう。



おざわ ちあき
小澤 千晶

キャリア形成学部 キャリア形成学科
(インド仏教学)

「マーキング」

そもそも本を読む子供ではなかった。そういうわたしにとって、図書館というのはちょっと敷居が高いところだ。図書館の静けさや本の香りはちょっと背伸びをした気持ちにさせてくれるけど、こちらが値踏みをされているように感じて、すぐに居心地が悪くなってしまう。その気持ちを抑え込んで館内をうろついて本を手にとってみても難しそうで「まあいずれ」と書架に戻して早々に図書館を後にしてしまう…。

こんな感じだから、大学時代も初めのうちは図書館は本を探しに行くだけ、勉強するのは学食という感じだったが、学年が上がってくるとそういうわけにもいかない。扱う資料も増えるし調べなきゃいけないことも増える。必然的に図書館の滞在時間も長くなり、いつの間にかお気に入りの勉強スペースもできていた。

大学院時代は大半を研究室で過ごしたが、図書館は格好の隠れ場所だ。かつて敷居の高さとも感じていた静けさや本の香りは研究室の煩わしさを忘れて集中させてくれる要素となり、難しそうな本はわたしにまだ学ぶべきことがあることを気づかせてくれる存在となっていた。

ある先生が、授業で紹介した本はその日のうちに触れておきなさい、それだけでもご縁ができていつかその本が必要となる時があるからおっしゃっていた。なるほどそうかなと思う。敷居の高さを感じながらも、背伸びをして図書館をうろついてみる。本を手にとってみる。そうしているうちにいつかそこをわたしの場所とするわたしになっていく。つまり、まずはマーキングをすることが大事なのだ。

京都光華女子大学学術リポジトリを 公開しました



京都光華女子大学学術リポジトリは、京都光華女子大学および京都光華女子大学短期大学部における教育と研究の成果をインターネット上で広く国内外に発信し、無償で公開するシステムです。

国立情報学研究所（以下、NII）が無償で提供する JAIRO Cloud（共用リポジトリサービス）に参加、2013年6月より本学リポジトリの運用を開始いたしました。本学における教育・研究の成果を多くの教育者・研究者の活動に役立てていただき、社会に貢献することを目的としています。

●学術リポジトリとは？

「学術リポジトリ」とは、各大学および研究機関で生みだされ電子化された知的成果を保存・管理し、原則的に無償で公開するためのインターネット上の書庫です。コンテンツは、一般的に研究紀要のほか、学術雑誌掲載論文、プレプリント、ワーキングペーパー、学位論文、会議発表論文、技術文書、調査報告、教材など多岐にわたり、PDFなどに電子文書化されたものが対象となっています。

●全国大学の機関リポジトリ構築状況

下の表に示すように、国公立大学では約6割が構築済みの機関リポジトリですが、私立大学を見ると、全国的にまだ未整備の状況にあります。本学では JAIRO Cloud に参加し、いち早く構築することができました。

	国公立大学	私立大学
機関リポジトリ構築 ／全国大学数	105／176	159／606
構築比率	59.6%	26.2%

本学のリポジトリ
159校の中に入っています！

出典
国立情報学研究所 学術機関リポジトリ構築連携支援事業「機関リポジトリ一覧」
（2014年1月31日現在データ）
文部科学省「大学基本調査」平成25年度

●現在の収録誌（執筆者未承諾を除く）

- ・京都光華女子大学研究紀要 第39号～刊行中
 - ・光華女子大学研究紀要 第30～38号
 - ・研究紀要 / 光華女子大学 [編] 第19～29集
 - ・京都光華女子大学短期大学部研究紀要 第49集～刊行中
- 上記研究紀要のほか、新たな学術雑誌を公開する予定です。

●活動記録

- 2012年 システム調査および設定
データ登録、運用規程作成
- 2013年6月 リポジトリシステム 本格稼働
大学研究紀要・短期大学部研究紀要 公開
- 2013年9月 運用規程 施行

徐々に対象を広げ、登録コンテンツ増加を目指して参ります。教職員の皆様におかれましては是非、学術成果をご提供いただきますようよろしくお願いいたします。

「京都光華女子大学学術リポジトリ」で、「最もダウンロードされたアイテム」のランキングでの1位は、こども保育学科リポジトリの開設から現在まで、智原先生の論文は全国から1300件を超えるダウンロードがされています。リポジトリの

Q1、先生の研究テーマについて教えてください。

こども保育学科の教員ですので、「運動遊びを促す保育環境の在り方」や「保育者の身体性」について研究をしています。子どもの体力や運動能力の低下が言われて久しいです。今の子ども達は家庭ではなかなか外遊びをしなくなり、体力や運動能力を向上させるには、幼稚園・保育園の運動遊びが重要なウェイトを占めていると思われまます。園で子どもたちが自発的に体を動かしたくなるような環境設定や運動遊び教材について研究をしています。また、幼稚園・保育園の先生も人的環境ですので、子どもの活動に大きな影響を及ぼします。保育者を目指して入学してくる今の学生さんは、自身も運動遊びの経験が豊富でない場合が多く見られます。少しでも積極的に身体活動をして子どもたちと一緒に戸外で体を動かしてほしいと思い、保育者の身体性についての研究もしています。

Q2、この研究をはじめられたきっかけは何ですか。

子どもの体力・運動能力の低下が著しいので、保育者を目指すこども保育学科の学生さんに現状を理解してもらって、体を動かすことの楽しさ・爽快さを伝えられるようになってもらいたいと思ったのがきっかけです。

アイテムタイプ	紀要論文 / Departmental Bulletin Paper
言語	日本語
著者	野田 幸三 (CiNii ID: 9000006939869)
著者別名	NODA, Taizo

4. 智原江美先生の論文「幼児期の発育発達からみた運動遊びの考え方」です(2014年3月現在)。
 の開設とランキング1位を記念して、智原先生にお話しをうかがいました。



短期大学部
 こども保育学科
 智原江美先生

Q3、「幼児期の発育発達からみた運動遊びの考え方」はどのような内容ですか。

近頃はサッカー、野球、器械体操、スイミングなどの子どもの習い事が盛んです。それ自体は悪いことではありませんが、早期から特定の種目に特化してスポーツを体験させることは決して良いことではありません。幼児期に大切なのは多様な動きを体験することと、いろいろな動きを遊びの中であくまでも楽しく、繰り返し行って、動きの基礎を作り、体の使い方を体験することです。その経験は将来の運動技能の発達に大きく影響します。

幼児期の心身の発育やそれに伴った運動能力の発達について、これまで述べられていることを概論的にまとめ、親子が一緒に楽しく行ってもらえるような具体的な運動遊びの実践例の紹介をしました。

Q4、「京都光華女子大学学術リポジトリ」に限らず、リポジトリでの研究成果発信について、ご意見をお願いします。

いろいろな人がアクセスできるので、こちらの意図が正しく伝わらない場合も考え、丁寧な情報発信をする必要があるのではないかと思います。

有難うございました。



BOOK

わたしのすすめる1冊



「高瀬舟」

はしくち みちる
橋口 美智留
健康科学部 健康栄養学科
(基礎栄養学)

森鷗外著 新潮社
1998年刊
2F文庫コーナー
「山椒大夫・高瀬舟」所収



私が森鷗外の「高瀬舟」を最初に読んだのは高校生の時です。模擬試験の問題文として一部掲載されていました。島流しの刑で護送される喜助と同心庄兵衛の会話から、喜助が何故罪人になったかが明らかになっていきます。模試では、喜助が罪を犯した経緯を話すまでには至らなかったのですが、私も庄兵衛と同じ気持ちになって、喜助の話をもっと聞いてみたいと思い、この本を手にとったことを覚えています。全文で20ページにも満たない短いお話なのですが、庄兵衛の心情にそって喜助に思いをめぐらせながらページをめくったこと、読後は喜助やその弟の心情を自分なりにあれこれ考えたことを覚えています。当時は、あらずじ紹介にも書かれているように弟殺しの罪の是非を問う作品という印象を受けました。

それだけでも当時の私にとって十分に衝撃的な内容で、多くの事を考えさせられた記憶があります。しかし、今回この本を紹介するにあたって改めて読み返してみると、前述した問題に加え、弟が苦しんでいる描写のリアルさや庄兵衛が喜助を「喜助さん」とさん付けで呼ぶに至った心の動きが非常に丁寧にかつ自然に描かれている事が印象に残り、また新たな魅力を発見出来ました。

鷗外は陸軍の軍医でもあり、高木兼寛との脚気論争や、もう一つの代表作である「舞姫」に対する印象が強い方も多いと思いますが、この高瀬舟をはじめ本書に収められている作品を読むことで、森鷗外という人物に対する印象が変わる方も多いのではないかと思います。



「永遠の0(ゼロ)」

てらさわ たえこ
寺坂 多栄子
健康科学部 看護学科
(母性看護学・助産学)

百田尚樹著 講談社
2009年刊
2F文庫コーナー



学生時代はまったく読書に興味がなかったが、「これ絶対面白いから読んでみて」という友人からの一言をきっかけに小説にのめり込むようになりました。今は一冊の小説を鞆の中に常備し、時間の余裕がある時に読むようにしています。今回は百田直樹さんの「永遠の0(ゼロ)」を紹介します。百田直樹さんは「永遠の0(ゼロ)」を映画化するまでに多くのオファーを断り続けていたけれども、今回やっと映画化に踏み切ったことをテレビ番組で話されていました。とても魅力のある小説と思い、読みたい衝動にかられて書店に直行しました。

「永遠の0(ゼロ)」は、特攻隊員であった祖父が生前どのような人生だったのか、祖父を知る元兵士達に取材しながら展開していく物語です。主人公はその取材を通して祖父の生き様を理解していきます。私は人が亡くなることを題材にしている小説は好まないのですが、読んでみると人間愛を

テーマにした内容であったため、引き込まれるようにすぐに読み終えてしまい、最後は涙が流れて止まりませんでした。

この小説を読み進めていくうちに私の中で祖父という人物の人間像が変化していくのを感じました。他者に対する受け止め方は人それぞれであり、1つの評価にしかすぎないので、簡単に人を判断してはいけなく、と思わせる小説でした。またこの小説は、戦争を経験していないとわからないであろうリアルなことまで書かれており、百田直樹さんの取材能力の高さを感じさせられました。フィクションなので史実とは異なる部分もあるかもしれませんが、この小説は1つの時代を知る上で学びとなりました。

小説はフィクションかどうかに関わらず読み手の想像力を豊かにし、知識を深めることができます。今回は1冊しか紹介できず残念ですが、様々なジャンルの本を読んで、その本の世界観に浸っていただきたいと思います。

「私と本、そして図書館」

図書館事務室長として図書館を支え続けてくださった伊藤勝久氏が平成25年度末で定年退職されます。様々な図書館への思いをつづっていただきました。



伊藤 勝久 元図書館事務室長

平成20年2月に事務局職員となり、大学図書館の事務室長に就任しました。それまで企業に勤めながら非常勤講師として10年余り本学で情報系の科目を担当してきたのですが、図書館に入るのは初めてで、なにかワクワクしたのを思い出します。以来6年にわたり、情報システム部長や情報教育センター事務室長との兼務を続けてまいりました。

私自身は工学部出身で若いころは技術の世界にどっぷり浸かっていましたので、技術書ばかりに囲まれた環境だったのですが、その反動か小説や文学書、ビジネス書などもよく読みました。根っからの読書好きでしたので、図書館の仕事にも大いに興味がありました。それまで図書館と言えば町の図書館しか縁がなく、大学図書館は大昔の学生時代以来でした。当然ながら図書館の業務に対する知識はゼロで、カウンターでの図書の貸出・返却程度しか見えていませんでしたが、実はこれは図書館の仕事のごく一部で、それ以外の仕事が山のようにあるということにすぐに思い知らされました。

まず、どんな本を取り揃えておくべきか検討し、具体的に

購入する本を選ぶ「収書」と「選書」、そして書店への「発注」から「支払」までの事務処理があります。納品された本は「受入」、「目録」などの作業を行って初めて本学図書館の蔵書となります。これにより分類に応じた書架へ「配架」し、ようやく皆さんの目に触れるとともに、ネットワークからの検索も可能になります。この他、図書館には「レファレンス」コーナーがあります。学習や研究に際して資料探しのご相談にのるのが主な役割です。また、図書館の活用方法を習得していただくための「図書館ツアー」も最近は大変活発です。さらに昨年は学術リポジトリの登録と公開も始めました。また、ICT化の波に乗って、近年では電子ジャーナルの利用の急増や、PC・ネットの利用者増加など図書館の活用形態も変化しています。

このように図書館の中ではさまざまな業務が動いており、図書館事務室職員は外から見えない多くの仕事に追われています。そして常に皆さんの役に立つ図書館でありたいと願っています。今後とも図書館を大いに活用いただくとともに、職員の業務にもご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。



みんなのおススメ本^{ポン}



開催期間 10月16日(水)～12月31日(火)

学生、教職員を対象とした読書ラリー「みんなのおススメ本」を開催しました。読書コメント(簡単な感想文)を書いてポイントのため、景品をもらおうという企画です。24名の学生、教職員の参加エントリーを受け、多数のコメントを投稿いただきました。コメントはウェブ本棚「ブクログ」の光華女子大学図書館の本棚にアップしています。また投稿されたコメントの中から、さらに図書館から贈られる賞が決定しました。



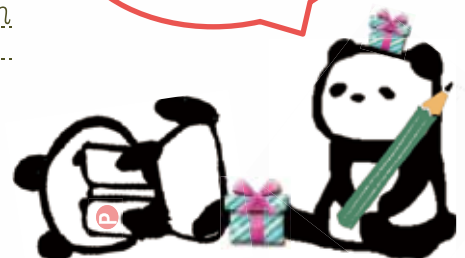
館長賞

ペンネーム 「いちご」さん

「暗黒童話」、「空の欠片」にコメントをいただきました

館長ひとことコメント...たくさんのご応募、有難うございました。ひとりで何冊も推薦して下さった方もあり、皆さんの思い入れがよく伝わってきました。いずれも甲乙付け難いのですが、今回の館長賞はいちごさんに決定しました。.....

たくさんのコメント
ありがとう
ございました!!



最優秀賞

ペンネーム
「ringo」さん



優秀賞

ペンネーム
「リス」さん
「まゆきち」さん

各賞の受賞者にはそれぞれ図書カードが贈られました

6月
1日

「角倉一族と京都」貴重書展示

文学科担当の春季公開講座「角倉一族と京都」にあわせ、かかわりの深い図書館所蔵の貴重書を館内で展示し、当日は図書館から公開講座会場へと場所を移して披露させていただきました。200名を超える来場者があり、先生方、講師の角倉さんの講演後、みなさん展示をたいへん興味深く鑑賞されていました。



8月

夏休みは、
京都光華女子大学図書館に
行ってみよう。

夏休み期間中、府内の高校に通う女子高生の方々に図書館を開放しました。大学生の先輩と同じ空間で、みなさん未来に想いをはせられていたのでしょうか。熱心に勉強されていました。

11月
17日

今年もしました「古本市」!!

あかね祭(学園祭)のなかで、第二回となる「古本市」を開催しました。今年もたくさんの方にご来場いただきました。開館時間の前から待たれていた方、何度も見に来てくださった方などなど。みなさん、ありがとうございました!



11月

光庵×図書館の初コラボ企画☆彡

図書館にある絵本に登場するお菓子を、和 Cafe 光庵のスタッフがイメージをふくらませてメニュー化するというこの企画。第一弾が「ぐりとぐら」のカステラ、第二弾が「アルプスの少女ハイジ」のポテトチーズスープでした。どちらも行列ができるほどの人気。完売続きで買えなかったという声もありました。次回企画も構想中、楽しみにしててくださいね!!



編集後記

図書館報「葛野の鐘」21号をお届けします。ご寄稿いただいた皆様には心より御礼申し上げます。

何期にもわたり図書館長を勤め、図書館へご尽力くださった谷口敏夫教授が昨年7月29日にご逝去されました。先生の教えを受けた谷口チルドレンのスタッフがこの号を作成しました。ここに改めて、謹んでご冥福をお祈りいたします。

葛野の鐘 第21号

2014年4月発行

京都光華女子大学図書館

京都市右京区西京極葛野町38

TEL (075)325-5399

E-mail: lib@mail.koka.ac.jp

http://www.koka.ac.jp/toshokan/

